医療最前線

認知症について①

作業療法士　龍神宜恵

近年、高齢化とともに認知症の方も増加しています。今回は、認知症についての簡単な説明と、認知症の現状などについてお伝えします。

■認知症とは

脳は私たちのあらゆる活動をコントロールしている司令塔です。脳の指令がうまく働かなければ、精神活動も身体活動もスムーズに運ばなくなります。

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまった、あるいは働きが悪くなってしまったことによりさまざまな障害が起こり、生活する上で支障が出ている状態（およそ６カ月以上継続）を言います。

その他にも、記憶の復活の有無、物忘れの進行性の有無、物忘れ以外の症状の有無、物忘れに対する自覚の有無、物忘れの多くで物忘れがみられますが、認知症でなくても加齢とともに物忘れが出現することもあります。この２つの物忘れには少し違いがあります【図1】。

一例として、加齢に伴う物忘れでは経験した出来事の一部を忘れる（例えば、食事内容の一部を思い出せない）のに対し、認知症では出来事の全てを忘れてしまいます（例えば、食事した事そのものを忘れてしまう）。さらに、加齢に伴う物忘れでは日常生活に支障を来しませんが、認知症では日常生活に支障を来すところが大きな違いといえます。

【図1】加齢に伴う物忘れと認知症の物忘れの違い

	加齢に伴う物忘れ	認知症の物忘れ
記憶の障害範囲	出来事の一部	出来事の全体
記憶の復活	きっかけがあると忘れた内容を思い出したりする	きっかけがあっても忘れた内容を思い出せない
進行性	なし	少なくとも１年単位で悪化
日常生活への支障	なし	あり
物忘れ以外の症状	なし	次第に加わってくる
物忘れに対する自覚の有無	あり	ないことが多い
物忘れに対する取り繕いや否定	なし	あり

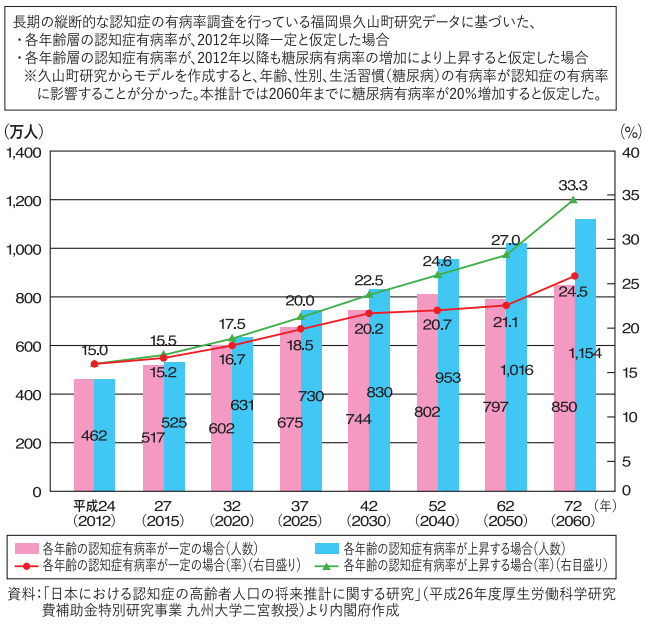
■認知症の現状

２０１２年における65歳以上の高齢者の推計有病者数は４６２万人で、認知症高齢者の約７人に１人（有病率15・0％）を占めています【図2】。

これが、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となる超高齢化社会の２０２５年になると、認知症の有病者がおよそ７００万人（６７５～７３０万人）、65歳以上の高齢者の約５人に１人（有病率18・5～20・0％）が該当すると推計されており、今や認知症は誰もが関わる可能性のある身近な病気と言えます。

その後もグラフの範囲で、２０６０年まで有病者数も有病率も上昇し続けています。

【図2】65歳以上の認知症患者の推定者数と推定有病率（内閣府ホームページより）



資料：「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学二宮教授）より内閣府作成

■若年性認知症

高齢者の認知症に対して、65歳未満で発症した認知症については「若年性認知症」と区別されます。高齢者の場合と医学的に大きな違いはありませんが、年齢的に家庭や社会で重要な役割を担っていることも多く、病気の影響が本人や家族だけにとどまらず、社会的にも大きくなる傾向があります。

２００９年の調査結果によると、全国の若年性認知症の人の数は約３万７８００人であり、人口10万人当たりの47・6人でした。これは65歳以上の認知症高齢者に比べると、かなり少ない数になります。

■認知症についての施策

厚生労働省では、団塊の世代が75歳以上となる２０２５年を見据え、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、新たに「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」（新オレンジプラン）を関係11府省庁と共同で策定しています。

２０１７年に改訂版が作成されており、「Ⅰ普及・啓発」「Ⅱ医療・介護等」「Ⅲ若年性認知症」「Ⅳ介護者支援」「Ⅴ認知症などと高齢者にやさしい地域づくり」「Ⅵ研究開発」「Ⅶ認知症の人やご家族の視点の重視」の７つの柱で構成されています。厚生労働省のホームページからかりやすいパンフレットがダウンロードできます。身近な問題として一度目を通してみてはいかがでしょうか。

次回は、認知症の医学的特徴について説明していきます。

〈梶川病院（広島市西区天満町）龍神宜恵 作業療法士〉

月刊 ウェンディ広島　編集・発行 合人社グループ 出版局　〒730-0036 広島市中区袋町4-31 合人社広島袋町ビル　☎082（247）7479